

(様式第 10)

旭医大第 1252 号  
平成 28 年 10 月 13 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 吉田 晃敏 (印)

旭川医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東 2 条 1 丁目 1 番 1 号
氏 名	吉田 晃敏

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

旭川医科大学病院
----------

3 所在の場所

〒078-8510	電話 (0166) 65-2111
北海道旭川市緑が丘東 2 条 1 丁目 1 番 1 号	

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
<input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 循環器内科    2 腎臓内科    3 呼吸器内科    4 脳神経内科    5 糖尿病内科	
6 内分泌内科    7 消化器内科    8 血液・腫瘍内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 心臓外科    2 血管外科    3 呼吸器外科    4 乳腺外科    5 小児外科 6 消化器外科    7 頭頸部外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科    2小児科    3整形外科    4脳神経外科    5皮膚科    6泌尿器科    7産婦人科 8産科    9婦人科    10眼科    11耳鼻咽喉科    12放射線科    13放射線診断科 14放射線治療科    15麻酔科    16救急科
---

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科    2 病理診断科
-------------------------

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
31床	床	床	床	571床	602床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 28 年 10 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	276人	124人	375.2人	看 護 補 助 者	51人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	6人	5人	10人	理 学 療 法 士	9人	臨 床 検 査 技 師	44人
薬 剤 師	42人	0人	42人	作 業 療 法 士	5人	検 査 衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	12人	そ の 他	0人
助 産 師	28人	1人	28.3人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0人
看 護 師	625人	46人	655.2人	臨 床 工 学 士	15人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	4人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	そ の 他 の 技 術 員	25人
歯 科 衛 生 士	1人	0人	1人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	102人
管 理 栄 養 士	8人	0人	8人	診 療 放 射 線 技 師	33人	そ の 他 の 職 員	45人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 28 年 6 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	26人	眼 科 専 門 医	18人
外 科 専 門 医	26人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	8人
精 神 科 専 門 医	5人	放 射 線 科 専 門 医	10人
小 児 科 専 門 医	22人	脳 神 経 外 科 専 門 医	8人
皮 膚 科 専 門 医	10人	整 形 外 科 専 門 医	15人
泌 尿 器 科 専 門 医	8人	麻 酔 科 専 門 医	20人
産 婦 人 科 専 門 医	12人	救 急 科 専 門 医	7人
		合 計	195人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 平田 哲 ) 任命年月日 平成 23 年 7 月 1 日

平成23年7月1日から平成27年6月30日までの期間、副病院長兼医療安全管理部長に就任。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	474.6 人	5.2 人	479.8 人
1日当たり平均外来患者数	1,508.7 人	43.8 人	1,552.5 人
1日当たり平均調剤数	706.74 剤		
必要医師数	135人		
必要歯科医師数	1人		
必要薬剤師数	16人		
必要(准)看護師数	293人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	579 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	病床数	19 床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	47 m <sup>2</sup>	病床数	4 床	
	[移動式の場合]	台数	6 台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床積	182 m <sup>2</sup>			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	388 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 総合血液学検査装置 ADVIA2120			
細菌検査室	80 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動細菌検査システム MIC2000			
病理検査室	408 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 生物顕微鏡 バーチャルスライド装置			
病理解剖室	93 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 床埋込式デジタル遺体計量器 SH-FD			
研究室	846 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動免疫染色装置			
講義室	624 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	室数	3 室	収容定員	553 人
図書室	3,514m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	室数	11 室	蔵書数	16万 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年4月1日～平成28年3月31日	
紹介率	78.3%	逆紹介率	67.1%
算出根拠	A：紹介患者の数	11,361人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	10,680人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	1,104人	
	D：初診の患者の数	15,910人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
平成29年3月までに設置予定。				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・ <del>無</del>
委員の選定理由の公表の有無	有・ <del>無</del>
公表の方法 平成29年3月までに設置予定。	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	3人
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	32人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法	19人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援下直腸切除・切断術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 直腸癌に対する腹腔鏡手術の適応を有する症例を対象とし、手術支援ロボットda Vinci S Surgical Systemを用いた直腸癌に対する直腸切除・切断術である。 手術支援ロボットは、ストレスの少ないより複雑で細やかな手術手技を可能としており、また三次元による正確な画像情報を取得できるため、より安全かつ侵襲の少ない手術が可能である。			
医療技術名	ロボット支援下肝臓切除術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 肝腫瘍に対する腹腔鏡下肝臓切除術が可能な症例に対して、手術支援ロボットda Vinci S Surgical Systemを用いた肝切除術である。 肝胆膵外科領域の外科手術において、ロボット支援手術のもたらす恩恵は大きい。高度解像度三次元画像、拡大視効果、高自由度多関節機能を有する鉗子、手振れ防止機能は、従来の鏡視下手術の欠点を補い、繊細な手術手技を必要とする肝臓切除手術に有効である。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	ベーチェット病	76
2	筋萎縮性側索硬化症	1	57	特発性拡張型心筋症	45
3	脊髄性筋萎縮症		58	肥大型心筋症	110
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	4	60	再生不良性貧血	18
6	パーキンソン病	117	61	自己免疫性溶血性貧血	2
7	大脳皮質基底核変性症	1	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病		63	特発性血小板減少性紫斑病	29
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	
10	シャルコー・マリー・トゥース病		65	原発性免疫不全症候群	6
11	重症筋無力症	41	66	IgA腎症	17
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	7
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	40	68	黄色靱帯骨化症	3
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	3	69	後縦靱帯骨化症	71
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	1
16	クドウ・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	76
17	多系統萎縮症	17	72	下垂体性ADH分泌異常症	18
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	36	73	下垂体性TSH分泌亢進症	
19	ライソゾーム病	5	74	下垂体性PRL分泌亢進症	5
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	4
21	ミトコンドリア病	3	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	13	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	17
23	プリオン病		78	下垂体前葉機能低下症	36
24	亜急性硬化性全脳炎	1	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症	3	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	7
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	10	83	アジソン病	2
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	117
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	9
31	ペスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	8
32	自己貪食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		88	慢性血栓性肺高血圧症	6
34	神経線維腫症	10	89	リンパ脈管筋腫症	
35	天疱瘡	13	90	網膜色素変性症	40
36	表皮水疱症	5	91	バッド・キアリ症候群	
37	膿疱性乾癬(汎発型)	16	92	特発性門脈圧亢進症	
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群		93	原発性胆汁性肝硬変	61
39	中毒性表皮壊死症		94	原発性硬化性胆管炎	2
40	高安動脈炎	24	95	自己免疫性肝炎	7
41	巨細胞性動脈炎		96	クローン病	166
42	結節性多発動脈炎	20	97	潰瘍性大腸炎	230
43	顕微鏡的多発血管炎	34	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	22	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	5	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	12	101	腸管神経節細胞減少症	
47	パージャー病	38	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	226	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	63	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	118	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	24	107	全身型若年性特発性関節炎	
53	シェーグレン症候群	160	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人ステル病	5	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎		110	ブラウ症候群	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー		161	家族性良性慢性天疱瘡	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	1
113	筋ジストロフィー	2	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺		165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症		167	マルファン症候群	
118	脊髄髄膜瘤		168	エーラス・ダンロス症候群	
119	アイザックス症候群		169	メンケス病	
120	遺伝性ジストニア		170	オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症		171	ウィルソン病	
122	脳表ヘモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		173	VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症		174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症		175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症		177	有馬症候群	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症		179	ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症		180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184	アントレー・ピクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリス症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	
140	ドラベ症候群		190	鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191	ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠神てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	プラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群	1	194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群		196	ヤング・シンプソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎		201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群		206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群		207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症		208	修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症		209	完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬		210	単心室症	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症		260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイロミクロン血症	
215	ファロー四徴症		263	脳腫黄色腫症	
216	両大血管右室起始症	1	264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群		266	家族性地中海熱	
219	ギャロウェイ・モワト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	9	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		271	強直性脊椎炎	1
224	紫斑病性腎炎	1	272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	
227	オスラー病	2	275	タナトフォリック骨異形成症	1
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症		283	後天性赤芽球癆	
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンconi貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	
244	メーブルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性膀胱炎	
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	2
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシュヤー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯A000 2 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・A234-2 感染防止対策加算1
・歯A000 注9 歯科外来診療環境体制加算	・A234-2 注2 感染防止対策地域連携加算
・歯A000 注10 歯科診療特別対応連携加算	・A234-3 患者サポート体制充実加算
・A104 特定機能病院入院基本料(一般7:1、精神13:1)	・A236 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・A204-2 臨床研修病院入院診療加算(基幹型病院)	・A236-2 ハイリスク妊娠管理加算
・歯A204-2 臨床研修病院入院診療加算 (歯科、単独型又は管理型病院)	・A237 ハイリスク分娩管理加算
・A205 救急医療管理加算	・A242 呼吸ケアチーム加算
・A205-2 超急性期脳卒中加算	・A243 後発医薬品使用体制加算1
・A205-3 妊産婦緊急搬送入院加算	・A244 病棟薬剤業務実施加算1
・A207 診療録管理体制加算2	・A244 病棟薬剤業務実施加算2
・A207-2 医師事務作業補助体制加算1 75対1補助体制加算	・A245 データ提出加算2
・A207-3 急性期看護補助体制加算 25対1 (補助者5割未満)	・A246 退院支援加算2
・A207-4 看護職員夜間12対1配置加算2	・A246 退院支援加算3
・A208 注1 乳幼児加算	・A246 注4 地域連携診療計画加算
・A208 注2 幼児加算	・A248 精神疾患診療体制加算
・A212 注1 超重症児(者)入院診療加算	・A300 救命救急入院料1
・A212 注2 準超重症児(者)入院診療加算	・A300 注3 充実段階A評価加算
・A214 看護補助加算2 50対1	・A301 特定集中治療室管理料1
・A219 療養環境加算	・A301 注2 小児加算
・A221 重症者等療養環境特別加算	・A302 新生児特定集中治療室管理料1
・A221-2 小児療養環境特別加算	・A303-2 新生児治療回復室入院医療管理料
・A224 無菌治療室管理加算1	・A307 小児入院医療管理料2
・A226-2 緩和ケア診療加算	・A307 注2 プレイルーム加算
・A230-3 精神科身体合併症管理加算	・
・A232 がん診療連携拠点病院加算	・
・A234 医療安全対策加算1	・

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・B001 3 注1 悪性腫瘍特異物質治療管理料 尿中BTA検査	・B005-8 注1 肝炎インターフェロン治療計画料
・B001 3 注2 悪性腫瘍特異物質治療管理料 腫瘍マーカー検査	・B008 注1 薬剤管理指導料
・B001 4 注 小児特定疾患カウンセリング料	・B009 注15 診療情報提供料(I)
・B001 5 注1 小児科療養指導料	・B009-2 電子的診療情報評価料
・B001 9 注 外来栄養食事指導料	・B011-4 注1 医療機器安全管理料1
・B001 10 注1 入院栄養食事指導料1	・B011-4 注2 医療機器安全管理料2
・B001 11 注 集団栄養食事指導料	・歯B018 医療機器安全管理料(歯科)
・B001 12 注4 植込型除細動器移行期加算	・歯B004-6 注1 歯科治療総合医療管理料(I)
・B001 14 注1 高度難聴指導管理料	・歯B004-6-2 注1 歯科治療総合医療管理料(II)
・B001 16 注1 喘息治療管理料1	・C005 注2 在宅患者訪問看護・指導料
・B001 16 注3 喘息治療管理料2	・C005-1-2 注2 同一建物居住者訪問看護・指導料
・B001 18 注1 小児悪性腫瘍患者指導管理料	・C152-2 注1 持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
・B001 20 注1 糖尿病合併症管理料	・D006-4 注 遺伝学的検査
・B001 22 がん性疼痛緩和指導管理料	・D006-2 造血器腫瘍遺伝子検査
・B001 23 注1 がん患者指導管理料1	・D023 7 注 HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・B001 23 注2 がん患者指導管理料2	・D026 検体検査管理加算(IV)
・B001 23 注3 がん患者指導管理料3	・D026 遺伝カウンセリング加算
・B001 24 注1 外来緩和ケア管理料	・D206 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・B001 27 注1 糖尿病透析予防指導管理料	・D210-3 植込型心電図検査
・B001-2-3 注 乳幼児育児栄養指導料	・D211-3 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・B001-2-5 注 院内トリアージ実施料	・D215 胎児心エコー法
・B001-2-7 注1 外来リハビリテーション診療料	・D225-4 ヘッドアップティルト試験
・B001-2-8 注1 外来放射線照射診療料	・D231-2 皮下連続式グルコース測定
・B005-6 注1 がん治療連携計画策定料	・D235-2 長期継続頭蓋内脳波検査
・B005-6-3 注1 がん治療連携管理料1	・D238 1 注2 脳波検査判断料1
・B005-6-4 外来がん患者在宅連携指導料	・D239-3 神経学的検査

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・D244-2 補聴器適合検査	・H003 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・D270-2 ロービジョン検査判断料	・H003 注3 初期加算
・D282-3 1 コンタクトレンズ検査料1	・H007-2、歯H003 がん患者リハビリテーション料
・D291-2 小児食物アレルギー負荷検査	・H007-4 リンパ浮腫複合的治療料
・D291-3 内服・点滴誘発試験	・歯H001-3 歯科口腔リハビリテーション料2
・D409-2 センチネルリンパ節生検	・I013 注2 抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・D415 注2 CT透視下気管支鏡検査加算	・I014 医療保護入院等診療料
・E通則4 画像診断管理加算1	・J通則5 医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1
・E通則6、7 遠隔画像診断(受信側)	・J通則5 医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1
・E101-2 ポジトロン断層撮影	・J通則5 医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1
・E101-3 ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・J007-2 硬膜外自家血注入
・E200 コンピューター断層撮影(CT撮影)イ〜ロ	・J038 注9 透析液水質確保加算2
・E200 注4 冠動脈CT撮影加算	・J045-2 一酸化窒素吸入療法
・E200 注7 大腸CT撮影加算	・J070-4 磁気による膀胱等刺激法
・E202 磁気共鳴コンピューター断層撮影(MRI撮影)1,2	・歯M001 注5 歯M001-2 注1 う蝕歯無痛的窩洞形成加算
・E202 注4 心臓MRI撮影加算	・歯科J063 注5 手術時歯根面レーザー応用加算
・F100 注7、F400 注5 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・歯M029 注3 歯科技工加算1
・G通則6、歯G通則6 外来化学療法加算1	・歯M029 注4 歯科技工加算2
・G020 無菌製剤処理料	・K007、歯J104-2 悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
・H000 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・K022 1 組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。) 一次再建
・H000 注3 初期加算	・K059 4 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・H001 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・K169 注1 脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・H001 注3 初期加算	・K059 4 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・H001-2 1 廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ)	・K181、K181-2 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・H002 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・K190、K190-2 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・H002 注3 初期加算	・K254 1 治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・K260-2 羊膜移植術	・K615-2 経皮的動脈遮断術
・K268 5 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・K627-3 腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術
・K280-2 網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・K636-2 ダメージコントロール手術
・K281-2 網膜再建術	・K677 1 胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・K328 人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・K695-2 腹腔鏡下肝切除術
・K340-7 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・K697-5 生体部分肝移植術
・K461-2 内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術	・K702-2 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・K462-2 内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	・K721-4 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・K464-2 内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術	・K768 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・K461-2 内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・K800-3 膀胱水圧拡張術
・K476 注2 乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・K803-2 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・K476 8 乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの))	・K803-3 腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・K476 9 乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの)	・K823-5 人工尿道括約筋植込・置換術
・K476-4 ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後) 一次一次的再建	・K843-4 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・K514 10 肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・K879-2 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・K546 経皮的冠動脈形成術	・K手術通則 12 医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
・K549 経皮的冠動脈ステント留置術	・K手術通則 12 医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
・K555-2 経皮的動脈弁置換術⇒経カテーテル動脈弁置換術	・K手術通則 12 医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
・K597、K597-2 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・K664 医科点数表第10部手術の通則の16に掲げる手術
・K597-3、K597-4 植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・K手術通則 医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術
・K598、K598-2 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・K920-2、歯J200-2 輸血管管理料 I
・K599、K599-2 植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術	・K920-2 注3 貯血式自己血輸血管管理体制加算
・K599-3、K599-4 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・K939-3 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・K599-5 経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)	・K939-4 内視鏡手術用支援機器加算
・K600 大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・K939-5 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・K603 補助人工心臓	・歯J063 5 歯周組織再生誘導手術





(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・先天性難聴の遺伝子診断	・
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・腹腔鏡下子宮体がん根治術	・
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	・
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	8回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 26例 / 剖検率 8.6%

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
ハイブリッド技術とリアルタイム処理による機能ダイナミクスの解明	鎌田 恭輔	脳神経外科学講座	2,489,935	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
鼻性NK/T細胞リンパ腫におけるEBウイルス関連分子を標的とした診断治療法の開発	原潤 保明	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	6,110,000	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
皮質電位と脳機能画像標準化によるヒト機能テンプレート作成と信号解読	鎌田 恭輔	脳神経外科学講座	1,105,000	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
網膜循環における神経-血管連関の調節機構の解明と糖尿病網膜症早期診断への臨床応用	長岡 泰司	眼科学講座	1,052,922	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
臨床標本遺伝子解析結果に基づいた静脈グラフト内膜肥厚予測のバイオマーカー開発	東 信良	外科学講座(循環・呼吸・腫瘍病態外科学分野)	2,080,000	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
未来医療にむけた臓器機能維持、再生、評価のための肝臓内流動特性の解明	松野 直徒	外科学講座(消化器病態外科学分野)	2,600,000	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
視角からコミュニケーションへ:皮質脳波法で読み解く大脳神経回路の情報流	鎌田 恭輔	脳神経外科学講座	780,000	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
エピゲノム機構の異常が関与する遺伝性発達障害の発症病態の解明	高橋 悟	小児科	650,000	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
パーキンソン病治療薬の体内動態個体間変動メカニズムの解明による薬物療法最適化	山本 譲	薬剤部	400,000	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
医薬品一包化調剤時の配合変化に関する薬学的検討と適正調剤に関する研究	岩山 訓典	薬剤部	600,000	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
全血凝固能検査法を用いた大量出血時の不足血液成分の同定と輸血アルゴリズムの作成	花田 大輔	臨床検査・輸血部	600,000	補委	文部科学省(科研費)(補助金分)
各種皮膚疾患に対するエンジュレクチンの治療薬としての可能性に関する検討	本間 大	皮膚科学講座	1,820,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
KRAS遺伝子変異肺癌におけるNamt阻害による抗腫瘍効果とその作用機序の検証	大崎 能伸	呼吸器センター	2,340,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
血液を利用したMolecular Biopsyによる肺癌薬剤耐性のモニタリング	丹野 幸恵	呼吸器センター	910,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
高血圧性腎障害における血管周細胞のNF- $\kappa$ B シグナルの役割解明	中川 直樹	第一内科	2,080,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
Metallothionein3の糖尿病性腎症における役割の解明	滝山 由美	内科学講座(病態代謝内科学分野)	1,560,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
受容体結合活性に基づくグルカゴン測定法によって糖尿病を再検証する。	藤田 征弘	内科学講座(病態代謝内科学分野)	1,950,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
血清フェリチンによる鉄代謝調節因子ヘプジン発現調節を介した生体鉄感知機構の解明	生田 克哉	第三内科	1,820,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
ポルフィリン薬の効果増強を用いた光線力学的抗菌療法の新規開発と応用	豊嶋 恵理	感染制御部	1,300,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
HGF/c-Metシグナル活性化による移植腫瘍アポトーシス制御の試み	川原 敏靖	第二外科	2,730,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
リンパ管遺伝子細胞治療によるリンパ浮腫治療法の開発	齊藤 幸裕	第一外科	1,300,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
胸部大動脈外科における出血傾向の制御ーより安全な手術を目指してー	紙谷 寛之	外科学講座(循環・呼吸・腫瘍病態外科学分野)	1,690,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
光線力学的手法を応用した胸部悪性病変とリンパ節転移に対する新たな診断法の開発	北田 正博	乳腺疾患センター	1,430,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
ArterialSpinLabelingによる言語・記憶機能の画像化と検証	広島 寛	脳神経外科	2,080,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
心臓手術患者における塩酸ランジオリール薬物動態研究	國澤 卓之	麻酔・蘇生学講座	910,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)

緑内障濾過手術後濾過胞瘻痕機序の解明と新しい術後管理方法の確立	川井 基史	眼科	1,950,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
敗血症の予後予測因子とβ遮断薬の有効性と機序の解明	岡田 基	救急医学講座	2,340,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
過剰鉄が誘導する2-HG・エビジェネティクス異常を介した血液腫瘍の新たな発症機構	山本 昌代	第三内科	1,560,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
肝癌由来新規ヘプシジン/リアントの担癌鉄代謝関与とバイオマーカーとしての有用性	土岐 康通	第三内科	1,300,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
細胞外小胞体EVを介した長鎖機能性RNAによる肺癌進展制御機構の解明	高橋 賢治	第二内科	1,950,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
バレット食道癌の発生母地の差異に基づく発癌機構の解明と新規治療法の開発	野村 好紀	第三内科	1,690,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
エクソソーム内マイクロRNAおよびRNA結合蛋白を介した癌進展メカニズムの解明	後藤 拓磨	第三内科	1,430,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
消化管線維化メカニズムの解析と腸内細菌由来抗線維化物質による新規治療開発	嘉島 伸	第三内科	2,340,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
腸上皮インテグリンによる菌由来物質認識機構を介した新規宿主-細菌相互作用の解明	田中 一之	第三内科	2,340,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
血管新生における新規因子Ninjurin1の機能解明	鹿原 真樹	心血管再生・先端医療開発講座	1,560,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
NUT midline carcinomaにおける新たな治療戦略の開発	奥村 俊介	教育研究推進センター	1,690,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
3D培養表皮モデルを用いたRIP1の機能解析-‘角化’はネクロプトーシスか？-	齋藤 奈央	皮膚科	2,340,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
頭頸部癌動注患者に対するプラチナイメージングへの挑戦	佐々木 智章	放射線科	1,170,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
α7アセチルコリン受容体が筋弛緩抵抗性に与える影響とその改善	岩崎 肇	麻酔科蘇生科	1,690,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
ミトコンドリアのfission・fusionが神経障害性疼痛に及ぼす影響の検討	神田 浩嗣	麻酔科蘇生科	1,950,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
炎症性サイトカインによる筋萎縮に対しα7アセチルコリン受容体刺激が与える影響	笹川 智貴	麻酔科蘇生科	2,080,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
頭頸部悪性腫瘍に対するpoly-ICと抗PD-L1抗体を併用した免疫療法の開発	長門 利純	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	2,080,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
鼻性NK/T細胞リンパ腫におけるマイクロRNAを対象としたバイオマーカーの探索	駒林 優樹	耳鼻咽喉科	1,170,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
鼻性NK/T細胞リンパ腫におけるIAPファミリーの発現	上田 征吾	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	910,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
ドップラーOCTを用いたBRVOの病態解明と新規治療法の確立	谷 智文	眼科	2,340,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
マイクログリアの新規接着因子Ninjurin1を標的とした糖尿病網膜症の病態解明	下内 昭人	眼科	2,210,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
新規アディポカインDPP4に着目した糖尿病網膜症の病態解明と治療法の確立	大野 晋治	眼科	2,860,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
皮膚ノミア障害における角層デスモゾームの異常の解析と治療への応用	山本 明美	皮膚科学講座	1,040,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
ドラッグリプロファイリングによる新規メカニズムを持つ抗パーキンソン病薬の開発	田崎 嘉一	薬剤部	1,560,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
分泌型miRNAによる褥瘡・糖尿病性皮膚潰瘍の評価方法の確立と新規治療法への応用	藤井 聡	臨床検査医学講座	1,430,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
ヒト培養バレット上皮のエピゲノム解析と幹細胞性の実証を基盤とした新規予防治療法	盛一 健太郎	内科学講座(消化器・血液腫瘍制御内科学分野)	1,690,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
ERストレスを介した鉄代謝調節とUPR破綻による鉄過剰のメカニズム	大竹 孝明	臨床消化器・肝臓学診療連携講座	520,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
再生医療開発にむけた間葉系幹細胞様の毛細血管周細胞の機能解明	川辺 淳一	心血管再生・先端医療開発講座	1,170,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)

リボソーム投与により誘導されるMDSC様細胞の機能発現に関わる分子基盤の解明	東 寛	小児科学講座	780,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
心停止下ドナーによる肝移植のための新規保存液を用いたグラフト灌流保存法の開発	谷口 雅彦	外科学講座(消化器病態外科学分野)	650,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
炎症性血管病変の形成に対する内因性プロスタノイドの役割解明	高畑 治	麻酔・蘇生学講座	1,040,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
ヒト無精子症と早発閉経の病態解明および臨床医学への応用	宮本 敏伸	産科婦人科	1,040,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
脳内オレキシンシグナル低下はIBSの病態を引き起こす	奥村 利勝	総合診療部	1,170,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
腸炎モデルおよびヒト初代培養細胞を用いた菌由来活性物質の腸管保護メカニズムの解析	藤谷 幹浩	内科学講座(消化器・血液腫瘍制御内科学分野)	780,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
ハイブリッド・コンディショニングによる心筋救済法の開発とHSPを介する機序の解明	竹内 利治	第一内科	780,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
急性腎障害に対する糖代謝の制御を介した尿細管部位特異的な治療を目指して	藤野 貴行	第一内科	2,080,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
ヘプシジン 関連創薬のためのEPICシステムを応用した活性型ヘプシジン測定系の開発	佐々木 勝則	臨床消化器・肝臓学診療連携講座	1,950,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
膠原病に伴う肺高血圧症におけるIPAS/HIF-3 $\alpha$ シグナルの役割の解明	牧野 雄一	内科学講座(病態代謝内科学分野)	1,560,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
糖尿病、慢性透析が移植前静脈グラフトに与える影響の解析	内田 恒	外科学講座(循環・呼吸・腫瘍病態外科学分野)	1,950,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
麻酔プレコンディショニングがミトコンドリアイオンチャンネルに与える影響	丹保 亜希仁	救急医学講座	2,210,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
逆行性遺伝学手法を用いた無精子症原因遺伝子群の解析	千石 一雄	産婦人科学講座	1,040,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
鼻性NK/T細胞リンパ腫におけるCD70に対する分子標的治療の検討	岸部 幹	耳鼻咽喉科	1,040,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
声帯麻痺後の再運動化による喉頭機能の再生	片田 彰博	耳鼻咽喉科	1,170,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
扁桃腺疾患における口蓋扁桃摘出術の基礎・臨床的エビデンスの構築	高原 幹	耳鼻咽喉科	1,560,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
糖尿病網膜症における内因性分泌型AGEs受容体が及ぼす網膜循環への影響の解析	佐藤 栄一	眼科	780,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
ロービジョン患者の視覚機能に及ぼす光の影響	石子 智士	医工連携総研講座	1,430,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
疑似触覚シミュレーションと多機能画像融合顕微鏡支援ナビゲーションの開発	鎌田 恭輔	脳神経外科学講座	1,430,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
CREデコイODNによる血管内膜肥厚抑制効果の検討	内田 大貴	救急科	1,430,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
ROR1を標的とした肺癌の免疫治療に向けた基盤研究	林 諭史	呼吸器センター	1,170,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
新生児ヘルペスにおける抗炎症的治療介入に関する基盤研究	長森 恒久	小児科	1,300,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
新規芽生乳酸菌由来活性物質による腸内細菌叢変化と過敏性腸症候群への臨床応用	上野 伸展	内科学講座(消化器・血液腫瘍制御内科学分野)	1,820,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
毛細血管幹細胞におけるAPE1の役割解明—高性能化幹細胞調整法の開発にむけて—	山内 敦司	第一内科	1,170,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
肺癌における分子標的薬耐性機序の解明と治療戦略の開発	佐々木 高明	呼吸器センター	1,170,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
吸入麻酔薬と交感神経刺激が心筋細胞IKsチャンネルに及ぼす相互作用の検討	三國 生臣	麻酔・蘇生学講座	1,170,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
機能的電気刺激を用いた麻痺声帯再運動化の研究	野村 研一郎	耳鼻咽喉科	650,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
新たな網膜循環調節因子と網膜症治療法の確立	大前 恒明	眼科	1,170,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)

シェアストレスからみた網膜静脈分枝閉塞症の病態と治療	十川 健司	眼科	1,560,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
神経-血管連関応答下における網膜血流と神経活動の相互調節作用の解明	宋 勇錫	眼科	1,300,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
ラジオアイソトープ治療患者に対するアロマセラピーを用いた予防医療の試み	中山 理寛	放射線科	780,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
脳皮質電位(ECoG)を用いたリアルタイムでの脳機能の可視化と臨床応用	小川 博司	脳神経外科学講座	650,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
NAFLDにおけるプロバイオティクスの脂肪酸代謝作用ポイントの同定と治療応用	澤田 康司	内科学講座(消化器・血液腫瘍制御内科学分野)	1,820,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
皮質電位と脳機能画像標準化によるヒ機能テンプレート作成と信号解読	鎌田 恭輔	脳神経外科学講座	130,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
網膜循環における神経-血管連関の調節機構の解明と糖尿病網膜症早期診断への臨床応用	長岡 泰司	眼科学講座	1,300,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
臨床標本遺伝子解析結果に基づいた静脈グラフト内膜肥厚予測のバイオマーカー開発	東 信良	外科学講座(循環・呼吸・腫瘍病態外科学分野)	390,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
小腸移植における高圧ガス保存法への応用:再灌流障害軽減と免疫抑制作用の可能性	松野 直徒	外科学講座(消化器病態外科学分野)	130,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
がん・骨髄クロストークの可視化による腫瘍血管の異常性検出と、治療抵抗性の評価系	盛一 健太郎	内科学講座(消化器・血液腫瘍制御内科学分野)	100,000	補委	文部科学省(科研費)(基金分)
小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究	古川 博之	外科学講座(消化器病態外科学分野)	100,000	補委	厚生労働省(厚労科研)
特発性大腿骨頭壊死症の疫学調査・診断基準・重症度分類の改訂と診療ガイドライン策定を目指した大規模多施設研究	伊藤 浩	整形外科科学講座	150,000	補委	厚生労働省(厚労科研)
副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	棚橋 祐典	小児科	200,000	補委	厚生労働省(厚労科研)
「オール北海道先進医学・医療拠点形成」(治験段階に移行する基礎研究の創出)	吉田 晃敏	学長	112,312,898	補委	日本医療研究開発機構(AMED)
原発性リンパ浮腫ガイドライン改訂のための患者評価票の開発と複合的理学療法評価に関する研究	齊藤 幸裕	第一外科	15,522,000	補委	日本医療研究開発機構(AMED)
多施設共同研究による肝移植後肝炎ウイルス新規治療の確立と標準化	古川 博之	外科学講座(消化器病態外科学分野)	300,001	補委	日本医療研究開発機構(AMED)
臓器移植後成績向上のための、脳死臓器提供におけるドナー評価・管理システム・ガイドラインの作成	古川 博之	外科学講座(消化器病態外科学分野)	300,300	補委	日本医療研究開発機構(AMED)
次世代シーケンシング・ゲノムワイド関連解析を用いたC型肝炎治療に伴う肝病態進展軽快、肝発癌に関わる宿主因子の解析	澤田 康司	内科学講座(消化器・血液腫瘍制御内科学分野)	500,000	補委	日本医療研究開発機構(AMED)
母子感染の実態調査把握及び検査・治療に関する研究	古谷野 伸	小児科学講座	1,755,000	補委	日本医療研究開発機構(AMED)
備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の実用化を目指す研究	東 寛	小児科学講座	1,950,000	補委	日本医療研究開発機構(AMED)
多系統萎縮症の自然歴とその修飾因子に関する研究	片山 隆行	第一内科	390,000	補委	日本医療研究開発機構(AMED)
末梢型肺がんに対する光線力学的治療に関する臨床研究	大崎 能伸	呼吸器センター	1,211,970	補委	日本医療研究開発機構(AMED)
エストロゲン受容体陽性HER2陰性乳癌に対するS-1術後療法ランダム化比較第Ⅲ相試験(POTENT)	北田 正博	乳腺疾患センター	2,920,000	補委	公益財団法人バブリックヘルスリサーチセンター
ステント支援脳動脈瘤塞栓術の効果と安全性に関する多施設共同前向き観察研究(ESSENCE)	和田 始	脳神経外科学講座	64,200	補委	公益財団法人先端医療振興財団
非代償性心不全で入院し、体液貯留に対してトルバタタン治療を受けた患者に関する多施設共同前向きコホート研究(MT FUJI study)	長谷部 直幸	内科学講座(循環・呼吸・神経病態内科学分野)	32,400	補委	公益財団法人先端医療振興財団
治癒切除不能肺癌に対するFOLFIRINOX療法の観察研究(JSPAC06)	北野 陽平	第二内科	194,400	補委	公益財団法人静岡県産業振興財団
切除可能肺癌に対する術前治療としてのS-1併用放射線療法とゲムシタピン+S-1併用療法のランダム化第Ⅱ相試験(JSPAC04)	古川 博之	外科学講座(消化器病態外科学分野)	32,400	補委	公益財団法人静岡県産業振興財団
安定型冠動脈疾患を合併する非弁膜症性心房細動患者におけるリバーロキサパン単剤療法に関する臨床研究(AFIRE Study)	長谷部 直幸	内科学講座(循環・呼吸・神経病態内科学分野)	540,000	補委	公益財団法人循環器病研究振興財団

視機能を評価し機能回復を促す機器の開発・事業化 (AMED医工連携事業化推進事業 27-029)	石子 智士	医工連携総研講座	996,083	補 委	公益財団法人科学技術交流財団
臓器移植後成績向上のための、脳死臓器提供におけるドナー評価・管理システム・ガイドラインの作成(課題管理番号: 15ek0510013h0001)	古川 博之	外科学講座(消化器病態外科学分野)	300,300	補 委	国立循環器病研究センター
心臓サルコイドーシスに関する診断と治療効果の全国実態調査(略称:サルコイド全国調査)	佐藤 伸之	内科学講座(循環・呼吸・神経病態内科学分野)	162,000	補 委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
診療録直結型糖尿病データベース構築に向けた病院への情報システム導入と、システムを用いた情報収集の管理業務(J-DREAMS)	羽田 勝計	内科学講座(病態代謝内科学分野)	540,000	補 委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター
医薬品医療機器等レギュトリーサイエンス政策研究事業「C型肝炎救済のための調査研究及び安全対策等に関する研究」C型肝炎患者さんへの感染経路に関するアンケート	澤田 康司	内科学講座(消化器・血液腫瘍制御内科学分野)	200,000	補 委	独立行政法人国立病院機構長崎医療センター
エイズ診療向上に関する調査研究	大崎 能伸	感染制御部	3,892,000	補 委	北海道
不妊・不育症患者の実態と生殖補助医療技術による妊孕性向上に関する研究	千石 一雄	産婦人科学講座	802,740	補 委	北海道

計 116件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	佐藤 伸之	第一内科	Visit-to-visit variability and seasonal variation in blood pressure: Combination of Antihypertensive Therapy in the Elderly, Multicenter Investigation (CAMUI) Trial subanalysis.	Clin Exp Hypertens 37(5):411-9,2015
2	丸山 啓介	第一内科	Minimal change nephrotic syndrome associated with gefitinib and a successful switch to erlotinib.	Intern Med 54(7):823-826, 2015
3	松木 孝樹	第一内科	Ninjurin1 is a novel factor to regulate angiogenesis through the function of pericytes.	Circ J 79(6):1363-1371, 2015
4	齋藤 司	第一内科	Non-vitamin k antagonist oral anticoagulants do not increase cerebral microbleeds.	J Stroke Cerebrovasc Dis 24(6):1373-1377, 2015
5	坂本 央	第一内科	Late gadolinium enhancement on cardiac magnetic resonance represents the depolarizing and repolarizing electrically damaged foci causing malignant ventricular arrhythmia in hypertrophic cardiomyopathy.	Heart Rhythm 12(6):1276-1284, 2015
6	山本 泰司	第一内科	Interstitial lung disease associated with human papillomavirus vaccination	Respir Med Case Rep 16:15-17,2015
7	坂本 央	第一内科	Late gadolinium enhancement of cardiac magnetic resonance imaging indicates abnormalities of time-domain T-wave alternans in hypertrophic cardiomyopathy with ventricular tachycardia.	Heart Rhythm 12(8):1747-1755, 2015
8	澤田 潤	第一内科	A Sporadic Case of Fabry Disease Involving Repeated Fever, Psychiatric Symptoms, Headache, and Ischemic Stroke in an Adult Japanese Woman	Intern Med 54(23):3069- 74,2015
9	坂本 央	第一内科	Late Gadolinium Enhancement on Cardiac MRI Correlates with QT Dynamicity Represented by QT/RR Relationship in Patients with Ventricular Arrhythmias.	Ann Noninvasive Electrocardiol 21(2):126-35,2016

10	佐藤 伸之	第一内科	The relationship between repolarization parameters and serum electrolyte levels in patients with J wave syndromes	Magnes Res. 2015 Jan-Mar;28(1):1-13.
11	遠藤 哲史	呼吸器センター	Primary Mediastinal Amyloidosis Diagnosed by Transbronchial Needle Aspiration	Intern Med 55(3):317-318,2016
12	遠藤 哲史	呼吸器センター	Histamine H1 antagonist levocetirizine as a potential cause of lung injury	Respirol Case Rep 3(2):64-7,2015
13	牧野 雄一	第二内科	Multiple intestinal ulcers associated with primary epstein-barr virus infection in a patient with rheumatoid arthritis undergoing methotrexate therapy	Intern Med. 2015;54(22):2851-5.
14	羽田 勝計	第二内科	Influence of Renal Function on the 52-Week Efficacy and Safety of the Sodium Glucose Cotransporter 2 Inhibitor Luseogliflozin in Japanese Patients with Type 2 Diabetes Mellitus	Clin Ther. 2016 Jan 1;38(1):66-88.e20.
15	柳町 剛司	第二内科	Pancreatic glucose-dependent insulinotropic polypeptide (GIP) (1-30) expression is upregulated in diabetes and PEGylated GIP(1-30) can suppress the progression of low-dose-STZ-induced hyperglycaemia in mice	Diabetologia. 2016 Mar;59(3):533-41.
16	小西 弘晃	第三内科	Host-Microbe Interactions via Membrane Transport Systems. 17(4):931-7, 2015	Environ Microbiol. 2015 Apr;17(4):931-7.
17	藤林 周吾	第三内科	Intraductal cholangioscopic visualization of moving fasciola hepatica. 81(6):1485-6, 2015	Gastrointest Endosc. 2015 Jun;81(6):1485-6.
18	安藤 勝祥	第三内科	Heterogeneous nuclear ribonucleoprotein A1 improves the intestinal injury by regulating apoptosis via trefoil factor 2 in mice with anti-CD3-induced enteritis. 21(7):1541-52, 2015	Inflamm Bowel Dis. 2015 Jul;21(7):1541-52.
19	内海 辰哉	第三内科	The detection of pancreatic and retroperitoneal plasmacytoma helped to diagnose multiple myeloma: a case report. 94(27):e914, 2015.	Medicine (Baltimore). 2015 Jul;94(27):e914.
20	嘉島 伸	第三内科	Polyphosphate, an active molecule derived from probiotic Lactobacillus brevis, improves the fibrosis in murine colitis.	Transl Res. 2015 Aug;166(2):163-75.



21	藤谷 幹浩	第三内科	A randomized controlled study shows high-dose barium impaction therapy to be a practical option for preventing the recurrence of colonic diverticular bleeding. 20(4):131, 2015.	Evid Based Med. 2015 Aug;20(4):131.
22	田中 一之	第三内科	Probiotic-derived polyphosphate improves the intestinal barrier function through the caveolin-dependent endocytic pathway. 467(3):541-8, 2015.	Biochem Biophys Res Commun. 2015 Nov 20;467(3):541-8.
23	小西 弘晃	第三内科	microRNA-26a and -584 inhibit the colorectal cancer progression through inhibition of the binding of hnRNP A1-CDK6 mRNA. 467(4):847-52, 2015.	Biochem Biophys Res Commun. 2015 Nov 27;467(4):847-52.
24	盛一 健太郎	第三内科	Quantification of autofluorescence imaging can accurately and objectively assess the severity of ulcerative colitis. 30(12):1639-43, 2015.	Int J Colorectal Dis. 2015 Dec;30(12):1639-43.
25	Addo L	第三内科	The three isoforms of hepcidin in human serum and their processing determined by liquid chromatography-tandem mass spectrometry (LC-tandem MS). 103(1):34-43, 2016.	Int J Hematol. 2016 Jan;103(1):34-43.
26	坂谷 慧	第三内科	Lactobacillus brevis-derived polyphosphate inhibits colon cancer progression through the induction of cell apoptosis. 36(2):591-8, 2016.	Anticancer Res. 2016 Feb;36(2):591-8.
27	長谷部 拓夢	第三内科	Daikenchuto (TU-100) shapes gut microbiota architecture and increases the production of ginsenoside metabolite compound K. 4(1):e00215, 2016.	Pharmacol Res Perspect. 2016 Feb 10;4(1):e00215.
28	岩間 琢哉	第三内科	Increased dosage of infliximab is a potential cause of Pneumocystis carinii pneumonia. 8:2, 2016.	Gut Pathog. 2016 Feb 2;8:2.
29	高後 裕	第三内科	Recent advances in multiple myeloma	Int J Clin Oncol. 2015 Jun;20(3):411-2.
30	藤谷 幹浩	第三内科	A Bamboo Joint-Like Appearance is a Characteristic Finding in the Upper Gastrointestinal Tract of Crohn's Disease Patients: A Case-Control Study	Medicine (Baltimore). 2015 Sep;94(37):e1500.
31	高後 裕	第三内科	Deferasirox Decreases Liver Iron Concentration in Iron-Overloaded Patients with Myelodysplastic Syndromes, Aplastic Anemia and Other Rare Anemias	Acta Haematol. 2015;134(4):233-42.

32	岡野 聡美	小児科	Genotype-phenotype Correlation of the p.R1165C Mutation in the MYH9 Disorder: Report of a Japanese Pedigree	J Pediatr Hematol Oncol. 2015 Aug;37(6):e352-5.
33	高橋 悟	小児科	Characterization of intragenic tandem duplication in the PAFAH1B1 gene leading to isolated lissencephaly sequence	Mol Cytogenet. 2015 Oct 31;8:84.
34	高橋 悟	小児科	Focal frontal epileptiform discharges in a patient with eyelid myoclonia and absence seizures	Epilepsy Behav Case Rep. 2015 Jun 25;4:35-7.
35	高橋 悟	小児科	Electroclinical features of epileptic encephalopathy caused by SCN8A mutation.	Pediatr Int. 2015 Aug;57(4):758-62.
36	鈴木 滋	小児科	Age-adjusted glycated albumin accurately reflects blood glucose in patients with neonatal diabetes mellitus: comparison with calculated glycated albumin determined by past blood glucose concentrations	Ann Clin Biochem. 2016 Jan;53(Pt 1):117-23.
37	杉本 昌也	旭川医科大学病院小児科、 埼玉医科大学	Congenital Brain Tumor within the First 2 Months of Life.	Pediatr Neonatol. 2015 Dec;56(6):369-75.
38	杉本 昌也	小児科	Cardiac biomarkers in children with congenital heart disease.	World J Pediatr. 2015 Nov;11(4):309-15.
39	畠山 直樹	旭川医科大学病院小児科、 札幌医科大学	Extramedullary Tumor of Cerebral Falx: An Unusual Presentation of Acute Megakaryocytic Leukemia.	J Pediatr Hematol Oncol. 2015 Apr;37(3):e170-2.
40	菊地 信介	第一外科	Reversible Posterior Leukoencephalopathy Syndrome Associated with Treatment for Acute Exacerbation of Ulcerative Colitis	Intern Med. 2016 Mar;55(5):473-7.
41	東 信良	一外科	Impact of Demographic Changes on the Natural Course, Features and Prognosis of Critical Limb Ischemia	Circ J. 2015 Jun;79(7):1453-5.
42	谷口 雅彦	第二外科	Small-for-size syndrome in living-donor liver transplantation using a left lobe graft.	Surg Today. 2015 Jun;45(6):663-71.

43	伊藤 浩	整形外科	CORR Insights(®): Are there sex-dependent differences in acetabular dysplasia characteristics?	Clin Orthop Relat Res. 2015 Apr;473(4):1440-1.
44	神保 静夫	整形外科	Axillary pain and malignant tumor affecting upper thoracic nerve roots: report of two cases	J. Spine Res.2016 Feb;7:149-152
45	飯沼 晋	皮膚科	Klk8 is required for microabscess formation in a mouse imiquimod model of psoriasis.	Exp Dermatol. 2015 Nov;24(11):887-9.
46	藤井 瑞恵	旭川医科大学病院皮膚科、北見赤十字病院	Close correlation of herpes zoster-induced voiding dysfunction with severity of zoster-related pain: A single faculty retrospective study.	J Dermatol. 2015 Nov;42(11):1091-3.
47	本間 大	皮膚科	Accelerated nail elongation speed in psoriasis patients during treatment.	J Dermatol. 2015 Sep;42(9):910-1.
48	本間 大	皮膚科	Correlation of disease activity and serum level of carcinoembryonic antigen in acquired idiopathic generalized anhidrosis: A case report.	J Dermatol. 2015 Sep;42(9):900-2.
49	藤井 瑞恵	旭川医科大学病院皮膚科、北見赤十字病院	Toxic erythema with eccrine squamous syringometaplasia induced by nanoparticle albumin-bound paclitaxel.	J Dermatol. 2015 Nov;42(11):1134-5.
50	松尾 梨沙	皮膚科	External ear canal lesions of crusted scabies: A pitfall of recurrence?	J Dermatol. 2015 Oct;42(10):1023-4.
51	高橋 千晶	皮膚科	Cutaneous S100-negative, CD1a-positive histiocytosis successfully treated with combination therapy of oral methotrexate and corticosteroid.	J Dermatol. 2015 Oct;42(10):999-1001.
52	高橋 千晶	皮膚科	Malignant melanoma on female clitoris with bidirectional upper and lower lymphatic flow.	J Dermatol. 2015 Aug;42(8):842-4.
53	藤井 瑞恵	旭川医科大学病院皮膚科、北見赤十字病院	Erythema multiforme-type drug eruption with prominent keratinocyte necrosis induced by long-term administration of telmisartan.	J Dermatol. 2015 May;42(5):537-9.

54	高橋 千晶	皮膚科	Multiple poromas following combination chemotherapy and autologous peripheral blood stem cell transplantation.	J Dermatol. 2015 Apr;42(4):430-2.
55	井川 哲子	皮膚科	Novel postzygotic KRAS mutation in a Japanese case of epidermal nevus syndrome presenting with two distinct clinical features, keratinocytic epidermal nevi and sebaceous nevi.	J Dermatol. 2016 Jan;43(1):103-4.
56	山本 明美	皮膚科	Erythrokeratoderma variabilis et progressiva	J Dermatol. 2016 Mar;43(3):280-5.
57	和田 直樹	泌尿器科	Evaluation of prostaglandin E2 and E-series prostaglandin receptor in patients with interstitial cystitis	J Urol. 2015 Jun;193(6):1987-93.
58	和田 直樹	旭川医科大学病院泌尿器科	Dutasteride improves bone mineral density in male patients with lower urinary tract symptoms and prostatic enlargement: a preliminary study	Aging Male. 2016 Jun;19(1):12-4.
59	石羽澤 明弘	眼科	Optical Coherence Tomography Angiography in Diabetic Retinopathy: A Prospective Pilot Study.	Am J Ophthalmol. 2015 Jul;160(1):35-44
60	石羽澤 明弘	眼科	Choroidal thickness evaluation before and after hemodialysis in patients with and without diabetes.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2015 Oct;56(11):6534-41.
61	中林 征吾	眼科	Effect of Intravitreal Rho kinase inhibitor Ripasudil (K-115) on feline retinal microcirculation.	Exp Eye Res. 2015 Oct;139:132-5.
62	西川 典子	眼科	Distance stereotesting using vision test charts for intermittent exotropia.	Clin Ophthalmol. 2015 Aug 25;9:1557-62.
63	大前 恒明	眼科	Relationship between Retinal Blood Flow and Serum Adiponectin Concentrations in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2015 Jun;56(6):4143-9.
64	十川 健司	眼科	Anteroposterior tortuosity of the retinal vein at arterovenous crossings in healthy subjects.	Curr Eye Res. 2015;40(10):1040-5.

65	十川 健司	眼科	En-face Optical Coherence Tomography Angiography of Neovascularization Elsewhere in hemi Central Retinal Vein Occlusion.	Int Med Case Rep J. 2015 Oct 23;8:263-6.
66	宋 勇錫	眼科	Role of Glial Cells in Regulating Retinal Blood Flow during Flicker-Induced Hyperemia in Cats.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2015 Nov;56(12):7551-9.
67	宇都宮 嗣了	眼科	Imaging of the Corneal Sub-Basal Whorl-Like Nerve Plexus: More Accurate Depiction of the Extent of Corneal Nerve Damage in Patients with Diabetes.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2015 Aug;56(9):5417-23.
68	善岡 尊文	眼科	Role of Neuronal Nitric Oxide Synthase in Regulating Retinal Blood Flow during Flicker-Induced Hyperemia in Cats.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2015 May;56(5):3113-20.
69	高橋 淳士	眼科	Macular hole formation after vitreomacular detachment with an operculum	Retin Cases Brief Rep. 2016 Winter;10(1):79-82.
70	大前 恒明	眼科	Effects of habitual cigarette smoking on retinal circulation in patients with type 2 diabetes	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2016 Mar;57(3):1345-51.
71	熊井 琢美	耳鼻咽喉科	Targeting HER-3 to elicit antitumor helper T cells against head and neck squamous cell carcinoma.	Sci Rep. 2015 Nov 5;5:16280.
72	熊井 琢美	耳鼻咽喉科	CCL17 and CCL22/CCR4 signaling is a strong candidate for novel targeted therapy against nasal natural killer/T-cell lymphoma.	Cancer Immunol Immunother. 2015 Jun;64(6):697-705.
73	熊井 琢美	耳鼻咽喉科	Assessment of the change in cetuximab-induced antibody-dependent cellular cytotoxicity activity of natural killer cells by steroid.	Head Neck. 2016 Mar;38(3):410-6.
74	熊井 琢美	耳鼻咽喉科	Novel targets for natural killer/T-cell lymphoma immunotherapy	Immunotherapy. 2016;8(1):45-55.
75	中嶋 えりか	産科婦人科	Prenatal diagnosis of congenital imperforate hymen with hydrocolpos	J Obstet Gynaecol. 2015 Apr;35(3):311-3.

76	宮本 敏伸	産科婦人科	SIN3A mutations are rare in men with azoospermia	Andrologia. 2015 Nov;47(9):1083-5.
77	宮本 敏伸	産科婦人科	Male infertility and its genetic cause	J Obstet Gynaecol Res. 2015 Oct;41(10):1501-5.
78	宮本 敏伸	産科婦人科	A PLK4 mutation causing azoospermia in a man with Sertoli cell only syndrome	Andrology. 2016 Jan;4(1):75-81.
79	中山 理寛	放射線科	A quantitative evaluation of hepatic uptake on I-131 whole-body scintigraphy for postablative therapy of thyroid carcinoma	Medicine (Baltimore). 2015 Jul;94(28):e1191.
80	国沢 卓之	麻酔科蘇生科	Target-controlled infusion and population pharmacokinetics of landiolol hydrochloride in gynecologic patients.	J Anesth. 2015 Apr;29(2):198-205.
81	三国 生臣	旭川医科大学麻酔科蘇生科、マサチューセッツ総合病院、グラクソ・スミスクライン、ウイスコンシン医科大学、ミシガン大学	Enhanced effects of isoflurane on the long QT syndrome 1-associated A341V mutant.	Anesthesiology. 2015 Apr;122(4):806-20.
82	菊地 千歌	麻酔科蘇生科	Anaesthetics as cardioprotectants: translatability and mechanism.	Br J Pharmacol. 2015 Apr;172(8):2051-61.
83	神田 恵	麻酔科蘇生科	Gene Transfer of Glutamic Acid Decarboxylase 67 by Herpes Simplex Virus Vectors Suppresses Neuropathic Pain Induced by Human Immunodeficiency Virus gp120 Combined with ddC in Rats.	Anesth Analg. 2015 Jun;120(6):1394-404.
84	神田 浩嗣	麻酔科蘇生科	Effect of fluid loading with normal saline and 6% hydroxyethyl starch on stroke volume variability and left ventricular volume.	Int J Gen Med. 2015 Sep 29;8:319-24.
85	神田 恵	麻酔科蘇生科	Successful administration of venovenous extracorporeal membrane oxygenation through the modified Blalock-Taussig operation in an infant with graft dysfunction after the Norwood procedure.	Ther Clin Risk Manag. 2015 Oct 13;11:1579-80.
86	神田 浩嗣	麻酔科蘇生科	Effect of fluid loading on left ventricular volume and stroke volume variability in patients with end-stage renal disease: a pilot study.	Ther Clin Risk Manag. 2015 Oct 20;11:1619-25.

87	神田 浩嗣	麻酔科蘇生科	"Golden View" of the Porcine Wet Lab to Understand the Anatomy of the Mitral Valve by Transesophageal Echocardiography.	J Cardiothorac Vasc Anesth. 2015 Dec;29(6):e80-3.
88	神田 浩嗣	旭川医科大学麻酔科蘇生科、マイアミ大学-ミラー・スクール・オブ・メディシン	Inhibition of Mitochondrial Fission Protein Reduced Mechanical Allodynia and Suppressed Spinal Mitochondrial Superoxide Induced by Perineural Human Immunodeficiency Virus gp120 in Rats.	Anesth Analg. 2016 Jan;122(1):264-72.
89	三国 生臣	麻酔科蘇生科	Effects of changing from sevoflurane to desflurane on the recovery profile after sevoflurane induction: a randomized controlled study.	Can J Anaesth. 2016 Mar;63(3):290-7.
90	小川 博司	脳神経外科	The Road to Nonawaking Functional Mapping Combining High Gamma Activity with Corticocortical Evoked Potential	World Neurosurg. 2015 Jul;84(1):187-8.
91	奥村 利勝	総合診療部	Adenosine A1 receptors mediate the intracisternal injection of orexin-induced antinociceptive action against colonic distension in conscious rats	J Neurol Sci. 2016 Mar 15;362:106-10.
92	奥村 利勝	総合診療部	Levodopa acts centrally to induce an antinociceptive action against colonic distension through activation of D2 dopamine receptors and the orexinergic system in the brain in conscious rats.	J Pharmacol Sci. 2016 Feb;130(2):123-7.
93	奥村 利勝	総合診療部	Involvement of the dopaminergic system in the central orexin-induced antinociceptive action against colonic distension in conscious rats	Neurosci Lett. 2015 Sep 25;605:34-8.
94	鳥本 悦宏	腫瘍センター	Current therapeutic strategies for multiple myeloma	Int J Clin Oncol. 2015 Jun;20(3):423-30.
95	遠藤 哲史	呼吸器センター	Analysis of garenoxacin distribution in the mediastinum using endobronchial ultrasound-guided transbronchial needle aspiration	Int J Antimicrob Agents. 2015 Dec;46(6):721-2.
96	北田 正博	乳腺疾患センター	Leiomyoma of the Trachea: a case report	J Cardiothorac Surg. 2015 May 31;10:78.
97	武井 英博	病理診断科	Brain metastasis: clinical characteristics, pathological findings, and molecular subtyping for therapeutic implications	Brain Tumor Pathol. 2016 Jan;33(1):1-12.
~				

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	洪佐 琴恵	第三内科	イムノクロマト迅速定量測定試薬「ポイントストリップフェリチン-3000」の基礎評価	臨床病理:日本臨床検査医学会誌 63(12), 1371-1376, 2015-12
2	宮本 和俊	第一外科	北海道北部における小児外科のあゆみ～小児外科の入り口は外科だが出口は小児科～	「臨床小児医学」、63巻1～6号、p3-10
3	紙谷 浩之	第一外科	本邦における低舜腫手術の状況 低侵襲大動脈弁置換術:現況と今後の展望	日本外科学会雑誌 第117巻、第2号、p 109-113
4	東 信良	第一外科	合併症の成因・病態・治療:糖尿病足病変の治療	「糖尿病学」522-526,
5	浅井 慶子	第二外科	下部消化管に対する外科治療 局所進行直腸癌に対する治療戦略	北海道外科雑誌60(2).2015
6	今井 浩二	第二外科	肝胆膵領域に対する外科治療 胆嚢癌外科治療の最新知見	北海道外科雑誌60(2).2016
7	古川 博之	第二外科	【脳死肝移植の進展をいかに考えるべきか-脳死肝移植をもっと進展させなければ!-】 学会研究会の立ち位置を尋ねよう 脳死下臓器提供の担い手はあなた自身	肝・胆・膵72(3) 447-452.2016
8	川原 敏靖	第二外科	【肝腫瘍性病変の画像、病理、臨床】肝悪性腫瘍の外科治療	臨床画像32(2) 210-8.2016
9	松野 直徒	第二外科	臓器保存と機能再生 複合的戦略による心停止ドナーからの移植臓器有効利用の研究 灌流型臓器保存を中心とした機能再生の試み	OrganBiorogy 22(2)19-25.2015
10	入江 徹	整形外科	当科における上腕骨小頭部離断性骨軟骨炎の手術成	日本整形外科学会スポーツ医学会雑誌 35巻2号:106-13
11	阿部 里見	整形外科	抗生剤入りセメントスペーサーを使用した足根骨髄炎の二例	日本足の外科学会雑誌36巻1号:412-15
12	三好 直樹	整形外科	投球障害の予防と治療 北海道における取り組み 投球肩・肘障害に対する保存治療	北海道整形災害外科学会雑誌56巻2号:181-5



13	阿部 里見	整形外科	外脛骨と扁平足および後脛骨筋腱機能不全症の関係	東日本整形災害外科学会誌27巻:402-5
14	阿部 里見	整形外科	ギャップテクニックにおける大腿骨コンポーネントの回旋はpatella tilt とshiftに影響を与えない	日本人工関節学会誌45巻:705-6
15	阿部 里見	整形外科	Zimmer社製PersonaとNexGenの脛骨コンポーネント回旋設置の検討	日本人工関節学会誌45巻:493-4
16	類家 拓也	整形外科	PS型TKAにおけるPosterior condyle offsetの変化が術後1年の屈曲角と屈曲バランスに与える影響の検討	日本人工関節学会誌45巻:467-8
17	能地 仁	整形外科	PS-TKAの術後屈曲角度に影響する術中屈曲ギャップ評価条件の検討	日本人工関節学会誌45巻337-8
18	阿部 里見	整形外科	関節弛緩を伴う脊椎骨端骨幹端異形成症leptodactylic typeの1例 下肢アライメントの経年的変化と後天性膝蓋骨脱臼に対する治療経験	日本小児整形外科学会雑誌24巻2号:199-204
19	入江 徹	整形外科	ミニH字型プレートを用いた母指CM関節固定術の治療成績	日本手外科学会雑誌32巻4号:378-81
20	山本 明美	皮膚科	これがケラチン線維だ！	Visual Dermatology Vol.14 No.10:1176-1177
21	山本 明美	皮膚科	魚鱗癬症候群	小児科診療78巻11号:1583-1586
22	山本 明美	皮膚科	角化症UPDATE	WHAT'S NEW in 皮膚科学 2016-2017,76-77
23	岸部 麻里	皮膚科	Kallikrein-related peptidases(KLKs)と皮膚疾患	脳21,19巻2号:136-139
24	本間 大	皮膚科	甲状腺機能と臨床症状が関連した亜急性甲状腺炎を合併した掌蹠膿疱症の1例	皮膚科の臨床,58巻1号:42-43
25	本間 大	皮膚科	イヤホン常用者に生じ、再燃を繰り返したTrichophyton rubrumによる外耳道白癬	皮膚科の臨床,57巻11号:1766-1768
26	林 圭	皮膚科	カバキコマチグモ刺咬症の1例	皮膚科の臨床,57巻9号:1490-1491
27	沼田 香央里	皮膚科	脳低体温療法により誘発されたクリオフィブリノーゲン血症性紫斑の1例	皮膚科の臨床,57巻8号:1255-1258
28	山本 明美	皮膚科	clinicopathological conference(141)	Visual Dermatology: 14(7)pp864-866

29	石羽澤 明弘	眼科	腎移植または血液透析導入を契機に糖尿病黄斑浮腫が改善した5症例.	あたらしい眼科 32(2): 279-285, 2015.
30	西川 典子	眼科	PAT により術量を決定した近視を伴う急性内斜視の5症例.	眼科臨床紀要 8(6): 424-427, 2015.
31	大原 賢三	旭川医科大学病院耳鼻咽喉科、地域医療機能推進機構北海道病院耳鼻咽喉科	殻付きアマエビによる食道遺物症例	日本気管食道科学 会会報 66(3), 226- 231
32	上村 明寛	旭川医科大学病院耳鼻咽喉科、稚内市立稚内病院耳鼻咽喉科	前頸部に発生した孤立性線維性腫瘍例	耳鼻咽喉科臨床 108(7), 561-568
33	平田 結	耳鼻咽喉科	鼻前庭に発生した血管平滑筋腫例	耳鼻咽喉科臨床 109(1), 47-51
34	岸部 幹	耳鼻咽喉科	OMAAVの臨床像 全国アンケート調査から	Otology Japan 25(2): 183 -188
35	加藤 育民	産科婦人科	旭川医大における医学生の方漢方医療の認知を高めるために	産婦人科漢方研究 の歩み 32号:44- 48
36	板橋 彩	稚内市立病院, 旭川医科大学病院産科婦人科	妊娠中期に発症した急性骨髄性白血病に対し化学療法を行い母子共に良好な経過を得た一例	北海道産婦人科学 会誌60(1) 36- 41,2016
37	山本 兼二	麻酔科蘇生科	トラマドール投与後にセロトニン症候群を発症した1症例	ペインクリニック Vol.36No.4 通巻 317号
38	佐藤 慎	麻酔科蘇生科	Tuohy針描出における新型Infiniti plusニードルガイドの有用性(原著論文)	ペインクリニック Vol.36No.4:501- 505
39	柏木友太	麻酔科蘇生科	胸腔鏡補助下肺切除術における超音波ガイド下胸部傍脊椎ブロックの有用性 硬膜外麻酔との比較検討	麻酔 64(10), 1010- 1014
40	佐藤 泉	麻酔科蘇生科	プレガバリンが有効であった硬膜穿刺後頭痛の3症例	日本ペインクリニック 学会誌 Vol. 22 (2015) No. 4 p. 553-557
41	佐藤 慎	麻酔科蘇生科	頸髄損傷患者の肩関節手術において超音波ガイド下持続肩甲上神経ブロックおよび腋窩神経ブロックが有用であった1症例(原著論文)	日本ペインクリニック 学会誌 23(1): 37 -40
42	鎌田 恭輔	脳神経外科	後頭蓋窩類上皮腫手術のポイント～微小解剖の理解とモニタリング～	脳神経外科速報 25(8) 802-809 2015
43	嵯峨 健広	脳神経外科	Indocyanine Green Videoangiography の臨床応用	脳神経外科43(7) 593-601 2015
44	小川 博司	脳神経外科	皮質形成異常を有するてんかん患者に詳細な脳機能マッピングを行った症例	脳神経外科ジャー ナル24(7) 485- 489 2015

45	鎌田 恭輔	脳神経外科	機能MRIによる臨床脳機能マッピング	Clinical Neuroscience33(10) 1129-1134 2015
46	鎌田 恭輔	脳神経外科	脳外科顕微鏡の比較と使いこなすためのコツ(第二報)～顕微鏡の特性を用いた操作～	脳神経外科速報 25(12) 1258-1263
47	鎌田 恭輔	脳神経外科	脳外科顕微鏡の比較と使いこなすためのコツ(第一報)～顕微鏡光学原理と光軸の確保～	脳神経外科速報 25(11) 1148-1155 2015
48	石橋 秀昭	脳神経外科	医用技術の進歩に伴う近年のてんかん外科治療	脳神経外科ジャーナル25(2) 112-127 2016
49	田村 有希恵	脳神経外科	Super-Passive Language Mapping for awake craniotomy	Annual Review 2016 神経 87-94 2016
50	谷 和俊	歯科口腔外科	解離性大動脈瘤に起因する慢性DICによる舌咬傷出血に難渋した1例	有病者歯科医療 24巻4号 237-242 2015
51	柏木 友太	救急科	シベンズリン過量服用による心停止から percutaneous cardiopulmonary support (PCPS)・血漿交換を用いて回復した1例	日本集中治療医学会雑誌 (1340-7988)23巻1号 Page43-
52	松田 佳也	呼吸器センター	Hepatoid adenocarcinomaと考えられた $\alpha$ -fetoprotein産生肺癌の1例	肺癌, 55(3), 161-165, 2015年
53	藤井 聡	臨床検査・輸血部	貯血に伴うHb低下を迅速に予測する新規臨床検査法	自己血輸血 2015: 28(2); 197-200
54	藤井 聡	臨床検査・輸血部	動脈硬化性疾患と慢性炎症、血栓症:臨床検査の視点から	臨床病理 2015: 63(5); 605-611
55	新関 紀康	臨床検査・輸血部	Leucine aminopeptidase (LAP)測定試薬との異常反応を呈した原発性マクログロブリン血症のM蛋白の解析	電気泳動 2015: 59(1); 39-44
56	東 由桂	臨床検査・輸血部	血液培養から分離されたAcinetobacter 属菌の同定に関する検討	日本臨床微生物学雑誌 2015: 25(3); 213-222
57	友田 豊	臨床検査・輸血部	免疫血清検査 クロスマッチ	臨床検査 2015: 59(11); 1252-55
58	友田 豊	臨床検査・輸血部	輸血過誤、輸血副作用時の対応	臨床検査 2015: 59(11); 1259
59	渡 智久	臨床検査・輸血部	質量分析装置を用いた微生物の同定と現場での応用	MEDICAL TECHNOLOGY 2015: 42(7); 718-728
60	赤坂 和美	臨床検査・輸血部	【三尖弁と右室機能】三尖弁狭窄の評価	心エコー 2016; 17(3): 220-224

61	赤坂 和美	臨床検査・輸血部	救急エコースキルアップ塾 正確にサッと描出し、患者状態をパッと診るワザを伝授!】(第2章)頭・首を見る 頭頸部の観察 頸動脈編	レジデントノート 2015; 17(5): 866-872
62	柳谷 貴子	臨床検査・輸血部	健常人における末梢動静脈の超音波検査所見 体格および性差の検討	超音波医学 2016; 43(1): 134
63	長多 真美	臨床検査・輸血部	Bending lineを有する高度大動脈弁逆流の1例	超音波医学 2016; 43(1): 124
64	天内 雅人	手術部	Ni-Cd蓄電池の容量低下および容量変化量をもとにしたバッテリー交換時期の予測	医療機器学 85(2): 459-463
65	黒澤 温	手術部	ROTEMと一般凝固検査との比較検討	旭川医科大学研究フォーラム第16巻, 12-13
~				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 臨床研究の実施に必要な手続き等を定めたもの。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 11回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反の管理に必要な手続き等を定めたもの。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 28回 (持ち回り審議)

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 6回
・ 研修の主な内容 各種指針（臨床研究に関する倫理指針、疫学研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針）に関する講習、利益相反に関する講習、生命科学・医科学研究の安全性確保に関する講習。	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

心血管カテーテル治療、先進的肺癌治療、心血管再生療法、不整脈治療、腎炎ネフローゼの集学的治療、糖尿病腎症の寛解を目指した集約的治療、膵癌・肝癌の集学的治療、膠原病・内分泌疾患における集学的診断治療法、炎症性腸疾患の新規治療：新しい絶体療法を含むLBDの治療、特殊光内視鏡や小腸内視鏡を駆使した診断治療、消化管腫瘍の内視鏡治療：EMR・ESDによる早期性治療、カプセル内視鏡・小腸内視鏡を用いた小腸疾患治療：小腸癌・リンパ腫をはじめ小腸疾患の最新の診断治療、消化管疾患を有する悪性リンパ腫に対する最新の診断治療、輸血後鉄過剰症に対する最新のマネジメント：新規鉄キレート療法を含む、小児救急医療、新生児医療、最先端の弓部大動脈瘤手術、高難度バイパス手術による救肢治療、整容性を考慮した乳房温存手術、最先端の弓部大動脈瘤手術、腹腔鏡補助下消化管癌手術、炎症性腸疾患外科治療、肝胆膵領域高難度手術、人工股関節置換術、悪性黒色腫のセンチネルリンパ節生検、上部尿路結石に対する内視鏡的手術、難治性下部尿路機能障害の診断と治療、極小切開白内障手術、難治緑内障に対する手術療法、角膜パーツ移植術、糖尿病網膜症の硝子体手術、超選択的動注化学療法、人工内耳埋め込み術とその管理、音声再建外科、内視鏡手術、胎児超音波診断、高度生殖医療、CT・MRI・US・血管造影・核医学・PET-CTによる総合画像診断、IVR、放射線治療、RI内用療法、マンモグラフィ読影、3Dエコー診断による手術中の心機能評価、高感度超音波診断装置を利用した選択的末梢神経ブロック、薬物シミュレーションを用いた効果部位濃度測定による薬物管理、硬膜外内視鏡を用いた腰下肢痛治療、ニューロナビゲーター支援下脳神経手術、神経内視鏡支援下脳神経手術、難治性てんかんに対する焦点部切除手術、3次救急初療、人工呼吸管理、経食道心エコー、ドクターヘリ講習、気道管理における超音波の利用、超音波ガイド下中心静脈穿刺、超音波による胃内容の評価、周産期救急・敗血症性DICの管理 等

2 研修の実績

研修医の人数	54.92 人
--------	---------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
長谷部 直幸	第一内科	教授	36 年	循環器内科、腎臓内科、神経内科、呼吸器内科
牧野 雄一	第二内科	准教授	24 年	膠原病・内分泌内科、消化器内科、糖尿病科
奥村 利勝	第三内科	教授	32 年	消化器内科、血液腫瘍内科
千葉 茂	精神科神経科	教授	37 年	精神科神経科
東 寛	小児科	教授	37 年	小児科・思春期科、新生児科
東 信良	外科	教授	31 年	血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科
紙谷 寛之	外科	教授	19 年	心臓外科

古川 博之	外科	教授	36	年	消化器外科・移植外科
伊藤 浩	整形外科	教授	28	年	整形外科
山本 明美	皮膚科	教授	33	年	皮膚科
柿崎 秀宏	泌尿器科	教授	31	年	腎泌尿器外科
長岡 泰司	眼科	准教授	23	年	眼科
原淵 保明	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	34	年	耳鼻咽喉科、頭頸部外科
千石 一雄	産科婦人科	教授	37	年	周産母子科（産科）、女性医学科（婦人科・生殖医学科）
高橋 康二	放射線科	教授	34	年	放射線科（放射線診断・IVR）、放射線科（放射線治療）、放射線科（核医学）
國澤 卓之	麻酔科蘇生科	教授	19	年	麻酔科蘇生科、ペインクリニック、緩和ケア科
鎌田 恭輔	脳神経外科	教授	28	年	脳神経外科
竹川 正範	歯科口腔外科	准教授	31	年	歯科口腔外科
藤田 智	救急科	教授	35	年	救急科
大田 哲生	リハビリテーション科	教授	27	年	リハビリテーション科
三代川 齊之	病理診断科 病理部	教授	35	年	病理診断科
大崎 能伸	呼吸器センター	教授	36	年	呼吸器内科
北田 正博	呼吸器センター 乳腺疾患センター	准教授	29	年	呼吸器外科、乳腺外科
國澤 卓之	緩和ケア診療部	教授	19	年	（兼）
奥村 利勝	総合診療部	教授	32	年	（兼）
藤井 聡	臨床検査・輸血部	教授	35	年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
次頁以降参照
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
次頁以降参照
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。



① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

1	研修の主な内容	<u>初任者研修</u> 看護部運営と方針、継続教育、看護倫理、接遇、医療安全、他部門紹介等の講義を受け、病院組織における役割・心構えを理解し、適切な行動について認識する。
	研修の期間と実施回数	1. 平成 27 年 4 月 2～3 日、6～11 日、13 日 （8 日間/人） 1 回
	研修の参加人数	73 人
2	研修の主な内容	<u>新卒者看護技術研修（基礎Ⅰ・基礎Ⅱ）</u> 安全を確保し、的確な看護判断と末梢点滴静脈注射、酸素療法、経口・直腸与薬、筋肉注射等の看護技術を実践する能力を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 4 月 14 日～17 日、5 月 14 日・15 日 （3 日/人） 1 回
	研修の参加人数	68 人
3	研修の主な内容	<u>新卒者看護技術研修（基礎Ⅲ）</u> 所属部署で実施する看護技術を患者・家族に説明でき、安全に適切に提供する能力を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月 （2 日間/人） 1 回
	研修の参加人数	68 人
4	研修の主な内容	<u>新卒者静脈注射Ⅰ・Ⅱ</u> 静脈注射に関連する法的解釈・薬物の薬理作用と与薬上の注意点、基礎看護技術を習得する。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 5 月 28 日・29 日 （0.5 日/人） 1 回
	研修の参加人数	68 人

5	研修の主な内容	<u>新卒者メンバーシップ研修</u> 看護チームにおけるチームメンバーの役割が理解できる
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 6 月 25 日・6 月 26 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	68 人
6	研修の主な内容	<u>新卒者看護過程</u> 患者のニーズに沿った看護過程の展開と看護記録について理解を深める
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 7 月 16 日・17 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	66 人
7	研修の主な内容	<u>新卒者シミュレーション研修</u> 多重課題・時間切迫の状況下における傾向を自ら気づき安全なケアの実践力を高めるために場面設定による演習を行う。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 11 月 16 日～18 日、20 日 (110 分/人) 1 回
	研修の参加人数	67 人
8	研修の主な内容	<u>新卒者私の看護</u> 事例検討を通して、看護の視点を深める。
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 1 月 21 日、22 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	67 人

9	研修の主な内容	<u>新卒者静脈注射Ⅲ</u> 静脈注射を安全に実施するための知識を備え、実践能力を身につける。
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 2 月 4 日、5 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	67 人
10	研修の主な内容	<u>新任者静脈注射 I・II・III</u> 静脈注射に関連する法的解釈・薬物の薬理作用と与薬上の注意点、技術を習得する。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 4 月 23 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	5 人
11	研修の主な内容	<u>卒後 2 年目事例検討</u> 実践事例を通して、根拠に基づいたケアを分析し、自己の課題を明らかにする。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 9 月 17 日、18 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	49 人
12	研修の主な内容	<u>卒後 3 年目看護研究</u> 看護実践における疑問や問題の解決をめざすための研究的視点を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 5 月～平成 28 年 2 月 (4 日間/人) 1 回
	研修の参加人数	57 人

13	研修の主な内容	<u>教育担当者研修Ⅰ</u> 新人を取り巻く社会状況を再認識し、組織として新人看護職員教育支援体制を強化する。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 6 月 5 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	17 人
14	研修の主な内容	<u>教育担当者研修Ⅱ</u> シミュレーション教育の基礎と指導のスキルについて講義と演習を行う。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 11 月 26 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	42 人
15	研修の主な内容	<u>教育担当者研修Ⅲ</u> 教育担当者として新人やスタッフを支援するために、自己のストレスをマネジメントする方法を学ぶ
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 10 月 17 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	43 人
16	研修の主な内容	<u>プリセプターシップⅡ</u> 新人看護師が職場に適応できるように支援する力を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 6 月 12 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	46 人

17	研修の主な内容	<u>プリセプターシップ I</u> プリセプターシップについて学び、新人看護職員の支援について理解を深める。
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 2 月 26 日 (0.5 日/人) 1 回
	研修の参加人数	39 人
18	研修の主な内容	<u>リーダーシップ研修 I</u> リーダーに求められる機能と役割を講義と演習で学ぶ。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 7 月 18 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	36 人
19	研修の主な内容	<u>リーダーシップ研修 II</u> 医療チームにおいてリーダーシップを発揮するための講義とグループワークを実施する。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 9 月 11 日 (2 日/人) 1 回
	研修の参加人数	23 人
20	研修の主な内容	<u>看護学実習指導者研修</u> 講義とグループワークを通して看護学生の看護実践を指導する能力を高める。
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 2 月 19 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	34 人

21	研修の主な内容	<u>副看護師長研修</u> 看護管理者の役割を認識し、組織の目的達成に必要な行動をとるために、講義、実践発表会を行う。
	研修の期間と実施回数	1回目：平成27年9月5日    2回目：平成28年1月27日、28日
	研修の参加人数	延べ102人
22	研修の主な内容	<u>看護師長研修</u> 自己の看護管理経験を振り返り、概念化能力を養う目的で講義とグループワークを行う
	研修の期間と実施回数	平成28年2月22日    (0.5日/人)    1回
	研修の参加人数	28人
23	研修の主な内容	<u>院内体験研修</u> 部署で未経験・実施できない基礎看護技術を体験し、他部署とのつながりや看護の継続について振り返る。
	研修の期間と実施回数	平成27年8月～12月    (1日/人)    1回
	研修の参加人数	48人
24	研修の主な内容	<u>看護診断セミナー初級</u> 看護診断の意味・意義・活用を理解する。
	研修の期間と実施回数	平成27年6月14日 (1日/人)    1回
	研修の参加人数	79人

25	研修の主な内容	<u>看護診断セミナー中級</u> アセスメントと看護診断プロセスを理解する。看護診断に必要な知識を身につける。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 7 月 25 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	73 人
26	研修の主な内容	<u>看護診断事例検討会</u> 困難事例を振り返り、事例検討を通して看護診断力をつける。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 10 月 25 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	33 人
27	研修の主な内容	<u>理論と実践</u> 実践の場での体験と理論を結びつけ、統合する力を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 10 月 4 日 (1 日/人) 1 回
	研修の参加人数	20 人
28	研修の主な内容	<u>看護研究</u> 看護実践の質向上に向けた研究力を高める。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 8 月 21 日、10 月 9 日、平成 28 年 1 月 29 日 (2 時間/人) 3 回
	研修の参加人数	4 人

29	研修の主な内容	<p><u>新卒者看護 OSCE 客観的臨床技能試験</u></p> <p>口鼻腔吸引の演習を実施し、自己の看護技術の向上を目指し、主体的な学習姿勢を培う。</p>
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 10 月 14 日、15 日、16 日（30 分/人） 1 回
	研修の参加人数	67 人
30	研修の主な内容	<p><u>在宅療養支援研修</u></p> <p>地域での暮らしを見据えた看護を提供できる能力を育成するために、地域の訪問看護ステーションで研修を行う。</p>
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 11 月 9 日、12 日（1 日/人） 1 回
	研修の参加人数	4 人
31	研修の主な内容	<p><u>がん看護ジェネラリスト育成研修プログレス I</u></p> <p>講義とグループワークを通し、がんとともに生きる人々とその家族の体験や特徴を理解し、患者と家族の意向を尊重した看護実践を展開するための基盤となる考え方や知識を習得する。</p>
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 7 月 2 日～11 月 13 日（70 分/人） 3 回
	研修の参加人数	述べ 148 人
32	研修の主な内容	<p><u>がん看護ジェネラリスト育成研修プログレス II</u></p> <p>がん化学療法に伴う代表的な副作用症状について理解し、適切な対処方法とセルフケア支援のための知識を習得する。</p>
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 12 月 10 日～2 月 25 日（90 分/人） 2 回
	研修の参加人数	述べ 92 人



33	研修の主な内容	<u>がん看護ジェネラリスト育成研修プログレスⅢ</u> 講義とグループワーク、事例検討会を通し、がん化学療法看護の専門的知識をもとに包括的アセスメントを行い、看護経験に基づくケースを分析し、個別的・全人的な看護を展開する能力を養う。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 7 月 9 日～平成 27 年 11 月 27 日 (90～180 分/人) 3 回
	研修の参加人数	述べ 107 人
34	研修の主な内容	<u>がん看護ジェネラリスト育成研修プログレスⅣ</u> がん化学療法看護におけるベットサイドケアについて検討し、質の高い看護実践を推進するための能力を育成する。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 9 月 10 日～平成 28 年 2 月 9 日 (90～180 分/人) 2 回
	研修の参加人数	延べ 30 人
35	研修の主な内容	<u>緩和ケアの看護師育成プログラム</u> がんと診断を受け心理的にも身体的にも苦痛を持っている可能性が高い人に対する基本的な緩和ケアを看護師が担い実践する。
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 7 月 13 日～平成 28 年 2 月 22 日 (45 分/人) 5 回
	研修の参加人数	延べ 362 人
36	研修の主な内容	平成 27 年度「新卒者・新任看護師に対する静脈注射研修」
	研修の期間と実施回数	4 月 23 日、5 月 28 日、5 月 29 日 計 3 回
	研修の参加人数	74 名 (新任 5 名+新卒 69 名)

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

1	研修の主な内容	<p>看護必要度研修</p> <p>本研修は、新任者に対し、看護必要度の評価者として必要な知識・能力を養うことを目的としている</p>
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 5 月 21 日、22 日（120 分／人）2 回
	研修の参加人数	77 名
2	研修の主な内容	<p>第 1 回看護助手研修</p> <p>本研修は、看護助手が組織の一員としての役割を理解する、看護助手業務における感染防止対策と必要な知識、技術の獲得を目的としている</p>
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 7 月 29 日、30 日（90 分／人）2 回
	研修の参加人数	54 名
3	研修の主な内容	<p>第 2 回看護助手研修</p> <p>本研修は、看護助手に必要な知識、技術（臥床患者の体位変換・病衣交換）を身につけることを目的としている</p>
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 10 月 2 日、6 日（75 分／人）2 回
	研修の参加人数	54 名
4	研修の主な内容	<p>第 3 回看護助手研修</p> <p>本研修は、看護助手が組織の一員としての役割を理解する、看護助手業務における安全対策、個人情報の取り扱い、倫理について理解することを目的としている</p>
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 12 月 17 日、18 日（90 分／人）2 回
	研修の参加人数	53 名

5	研修の主な内容	第1回臨床倫理に関する学習会  臨床倫理に基づく視点と4分割法について理解することを目的としている。
	研修の期間と実施回数	平成27年10月8日（60分/人）1回
	研修の参加人数	74名
6	研修の主な内容	第2回臨床倫理に関する学習会  事例検討を通し、看護師が直面する倫理的問題に対する解決方法のプロセスがわかることを目的としている。
	研修の期間と実施回数	平成27年11月9日（75分/人）1回
	研修の参加人数	35名
7	研修の主な内容	看護記録学習会  本研修は、実践した看護が見える記録を推進することを目的としている
	研修の期間と実施回数	平成27年11月26日（45分/人）1回
	研修の参加人数	120名
8	研修の主な内容	看護診断の定義と分類  ～知っておきたい変更点と活用～  本研修は看護診断の変更点を周知することを目的としている
	研修の期間と実施回数	平成28年1月28日（45分/人）1回
	研修の参加人数	117名

9	研修の主な内容	<p>接遇研修</p> <p>職員のコミュニケーション能力の向上、職員の意識改革及び資質向上を図る</p>
	研修の期間と実施回数	平成 27 年 10 月 26 日
	研修の参加人数	197 名
10	研修の主な内容	<p>個人情報保護に関する講演会</p> <p>個人情報の取扱い及び保護に対する理解を深めるとともに意識の高揚を図る</p>
	研修の期間と実施回数	平成 28 年 3 月 7 日
	研修の参加人数	168 名

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 平田 哲
管理担当者氏名	総務課長 三浦 哲也、会計課長 綿矢 憲之、経営企画課長 北脇 清一、 医療支援課長 沼舘 敏光、薬剤部長 田崎 嘉一

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院事務部経営企画課	
		各科診療日誌	看護部	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	病院事務部経営企画課	
		看護記録	病院事務部経営企画課	
		検査所見記録	病院事務部経営企画課	
		エックス線写真	病院事務部経営企画課	
		紹介状	病院事務部経営企画課	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病院事務部経営企画課	
		病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿
高度の医療の提供の実績	病院事務部経営企画課			
高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務部総務課			
高度の医療の研修の実績	総務部総務課 病院事務部経営企画課			
閲覧実績	病院事務部経営企画課			
紹介患者に対する医療提供の実績	病院事務部経営企画課			
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院事務部経営企画課			
規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況		医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況		医療安全管理部	

コンピューターによる集中管理を行っている。カルテ等病歴資料、外来・入院別に1患者1ファイル方式とし、エックス線写真は分冊になっているが1患者単位での管理を行っている。

また旭川医科大学病院診療情報管理規定の「利用資格者の遵守事項」において、学外への持ち出しを禁止しているため、病院外へ持ち出すことは出来ないこととなっている。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務部総務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務部総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	総務部会計課
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務部総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務部総務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	病院事務部経営企画課
		医療安全管理部門の設置状況	総務部総務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	今後、審査部門の設置を検討
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	今後、審査部門の設置を検討
		監査委員会の設置状況	平成29年3月までに設置予定
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	平成29年4月から実施予定
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	病院事務部医療支援課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務部総務課 医療安全管理部
職員研修の実施状況	医療安全管理部		
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状	
閲覧責任者氏名	病院事務部長 千葉 正勝		
閲覧担当者氏名	経営企画課長 北脇 清一		
閲覧の求めに応じる場所	会議室（共通棟（B））		
閲覧の手続の概要			
①経営企画課病院庶務係で閲覧申込（申込者、閲覧理由等を記入）を受ける。			
②病院事務部長の承認を受ける。			
③指定した日時に会議室で閲覧（担当係員立会）。			
④閲覧終了後、担当係員に返却し、担当係員は閲覧事項等を報告する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。



(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容： (1) 安全管理の基本理念 (2) 安全管理組織体制の整備 (3) 部門の長の管理責任の明確化 (4) 診療マニュアルの活用(本編・携帯ポケットマニュアル) (5) インシデントと医療事故の用語の定義 (6) インシデント報告体制 (7) 医療事故発生時の対応 (8) 医療関連死・CPA-OA 症例の剖検に関する指針 (9) 医療相談窓口の設置 (10) 本指針改正・閲覧</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (有・無) ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： (1) 医療事故防止対策の検討及び推進 (2) 医療事故防止の啓発活動(講演会等の企画立案を含む) (3) インシデント報告の調査及び分析を行い、その改善策を講じ、改善事項・周知事項の周知徹底を図る (4) 医療事故防止対策マニュアルの見直し (5) 医療の安全に関する最新情報及び警鐘事例の職員への周知</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 16 回
<p>・ 研修の主な内容： 初任者研修(新規採用研修医・看護師)、新規採用医師・中途採用者の教育(看護師、事務職員、コ・メディカル)、ME 機器セミナー(輸液ポンプ・シリンジポンプ・カンガルーポンプ：全 2 回)、インスリン療法研修会、外部講師による講演会、各部門における安全の取り組み報告会&amp;ポスターセッション(2 日間：内容別)、事例検討会、e-ラーニングで学ぶ医療安全など</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 「診療マニュアル第 7 版」「医療安全ポケットマニュアル(第 9 刷)」を発行した。 (2) 薬剤部との合同院内ラウンドを実施し、薬剤の管理状況等について確認を行った。 (3) 気管挿管時の開口で歯が抜けた事例を受け、改善策として、手術時の「患者連絡票」に動揺歯の有無のチェック欄を設定した。 (4) 下部消化管内視鏡前処置に関する指示間違い事例を受け、改善策として、オーダー入力項目を追加し、事前に患者把握と検査内容の確認をすることとした。 (5) ESD 中、血圧上昇時に医師の指示で看護師がエホチールを投与した事例を受け、改善策として、チェックリストに VS の確認項目などの追加、ESD 事前ミーティングの開催、ESD における術者以外に鎮静担当医師の明確化を行うこととした。 (6) CHDF 透析接続のナファモスタットの指示間違い事例を受け、改善策として、病院セットに「透析用セット」を登録した。透析時の薬剤をオーダーする時に使用可となった。 (7) MRI 時の磁性体持ち込み事例を受け、改善策として、患者用チェックリストを作成した。 (8) ワーファリン処方間違い事例を受け、改善策として、持参薬指示書の変更を行った。 (9) ワンショットでの医療事故を防止するため、アスパラギン酸カリウム注 10mEq キットを採用した。</p>	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 院内感染対策に関する基本的な考え方・感染制御部・ICTなどの組織的な取り組み</li><li>・ 院内感染対策のための職員研修に対する基本指針</li><li>・ 感染症発生状況の報告に関する基本方針</li><li>・ 院内感染発生時の対応に関する基本方針</li><li>・ 患者に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li><li>・ その他の当院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針</li></ul></li></ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 院内感染の予防に関すること</li><li>・ 院内感染の情報収集に関すること</li><li>・ 感染源の追及等のための検査実施に関すること</li><li>・ 防疫対策の確立に関すること</li><li>・ HIV感染症の医療体制に関すること</li><li>・ その他、院内感染対策についての重要事項に関すること</li></ul></li></ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 15 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 初任者研修における講義（新採用者、初期研修医）</li><li>・ 手指衛生・PPE着脱演習（新採用者、中途採用者、各部署の教育担当者、全病院職員）</li><li>・ 院内感染対策に係る講演会</li><li>・ 針刺し・切創事故報告</li><li>・ ノロウイルス感染対策 嘔吐物処理方法に関する演習</li><li>・ e-ラーニング</li></ul></li></ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 微生物検査室と連携し微生物の新規検出状況を毎日把握しており、当該検出部署の感染対策マネジャーに連絡を行い感染予防策の実施について確認している。また、アウトブレイクが疑われる場合は菌種の遺伝子検査を実施し、同一菌種による発症事例が多数の場合は病院長に報告するとともに、保健所に報告する体制が構築されている。</li><li>・ 感染制御部における「適正な手指衛生・個人防護具の着脱演習」について、新規採用職員、中途採用職員なども含め、病院職員全体に実施している。また、教育対象を外注職員、ボランティアに拡大するなど院内の感染対策に努めている。</li><li>・ 医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師などのICTメンバーによる感染制御チームを設置している。1ヶ月に4回以上定期的院内ラウンドを実施し、各種の予防策の実施状況やその効果等の評価を行っている。</li><li>・ 感染制御チームのラウンドのほかに、感染対策リンクナースとともに各部署の「感染対策オーデイト」を行い、感染対策実施状況のチェックと指導を行っている。</li><li>・ 平成24年4月より、本院を含めた旭川市内5医療機関での連携が開始された。平成25年4月からは1医療機関脱退し、4医療機関で合同カンファレンスや平成26年9月から職種別（看護職）カンファレンスを実施し、相談体制など構築している。</li><li>・ 平成24年度より、加算1算定医療機関同士の相互チェックを実施している。</li><li>・ 講演会開催時、連携施設にも連絡し、連携施設の研修参加数が増えている。</li></ul></li></ul>	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 9 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 初任者研修 (対象：全職員：看護師：研修医) H27. 4. 3 研修医31名 (2) 新規採用医師並びに看護師の中途採用者の教育 H26. 4. 23～適時 継続中 (3) 医療安全に関する講演会「安全対策の落とし穴～思い込みに潜む畏から」H27. 9. 11 計230名 (4) その他の研修会 ① インスリン療法について H. 26. 8. 11 235名 ② 第 1 回事例検討会 (事例から学ぶ) H26. 7. 23 計52名 ③ 安全管理・感染制御部合同研修 (安全の基本の基本等) H26. 8. 24 計344名 ④ 各部門での安全の取り組み (実践と報告会) H26. 12. 2-3 計844名 ⑤ 安全管理部・感染制御部合同研修 (観血治療検査時の抗血栓薬一休薬と再開一) H26. 2. 10 計232名 ⑥ 第 2 回事例検討会 (事例から学ぶ) H26. 2. 25 計52名</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>(1) 総則 (2) 医薬品の採用 (3) 医薬品の購入・管理 (4) 薬剤部における医薬品の管理 (5) 病棟・各部門への医薬品の供給 (6) 外来患者への医薬品使用 (7) 入院患者への医薬品使用 (8) 麻薬管理 (9) 院内製剤 (10) 他施設との連携 (11) 医療事故防止および発生時の対応 (12) 教育・研修</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 厚生労働省医薬食品局：医薬品・医療機器安全情報 (2) 日本製薬団体連合会：Drug Safety Update (3) 各メーカー・卸からの回収情報等の収集</p>	

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 25 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>定期研修</p> <p>ME機器セミナー（シリンジポンプ、輸液ポンプ）：2回 医療機器安全基礎講習会：1回 人工心肺操作時のトラブル対応シミュレーション：1回 人工呼吸療法に関するセミナー：3回 高気圧酸素治療装置のトラブルシミュレーション：1回 血液浄化療法に関するセミナー：2回 保育器の取り扱い説明：1回 除細動器の取り扱い説明：1回</p> <p>新しい医療機器の導入時の研修</p> <p>血液凝固測定装置説明会：2回 条件付きMRI対応除細動器：2回</p> <p>点検後の研修</p> <p>放射線発生装置における定期点検後の装置状態説明：4回 <sup>197</sup>Ir線源交換・払出、線源校正：3回 診療用放射線照射装置における定期点検後の装置状態説明：2回</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	有・無
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>(1) シリンジポンプ、輸液ポンプ及び経腸栄養ポンプは中央管理による日常点検及び定期点検</p> <p>(2) 人工呼吸器の始業点検、使用中点検、終業点検及びメーカーによる定期点検</p> <p>(3) 血液浄化装置の始業点検及びメーカーによる定期点検</p> <p>(4) 除細動器は点検器具を用いた臨床工学技士による定期点検</p> <p>(5) 人工心肺装置及び補助循環装置は始業点検及びメーカーによる定期点検</p> <p>(6) 保育器の日常点検、定期的な点検</p> <p>(7) 診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、X線撮影装置、MRI装置、核医学撮影装置の始業・終業点検及び定期点検、装置の品質維持管理</p> <p>(8) 業者による定期保守点検</p> <p>① 診療用高エネルギー放射線発生装置</p> <p>② 診療用放射線照射装置</p> <p>③ 造影剤注入装置</p> <p>(9) 業者に対する機器故障時のオンコール</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	有・無
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 情報収集の方法</p> <p>① 医療機器に関する情報提供のホームページを活用</p> <p>② 医薬品医療機器情報配信サービス（PMDAメディナビ）の登録</p> <p>③ メーカー主催のメンテナンス講習会への参加</p> <p>④ 療機器に関連する学会への参加</p> <p>⑤ メーカー担当者からの報告及び情報の収集</p> <p>⑥ 放射線医療機器に関する情報提供のホームページを活用</p>	

⑦放射線医療機器に関連する学会への参加

(2) 情報の周知

- ① ME機器セミナーによる報告
- ② 文書配付による通知
- ③ メーカー担当者から関連部署への通知の依頼
- ④ 研修時の定期報告と確認
- ⑤ 記録簿等の報告と確認

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
<p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者は医療安全管理部長となっている。医療安全管理責任者を委員長とするリスクマネージャー連絡会議には、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が出席しており、管理状況が把握されている。また、医療安全管理責任者は、病院長を委員長とする医療安全管理委員会にリスクマネージャー連絡会議の内容を報告している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 (6 名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品の安全性に関する注意喚起情報を、薬品使用量集計システムを用いた使用状況に応じて、整理・周知するとともに、リスクマネージャー全体会議資料として全部署に回覧する予定。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>薬学的知見に基づき疑義照会を行い、その疑義照会データベースを定期的に確認し、未承認等医薬品の使用状況を確認する予定。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有 <input checked="" type="radio"/> 無) *指名予定だが、現在は薬剤部薬品情報室で管理確認。</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有・無 )</p> <p>・規程の主な内容：</p> <p>事故防止・安全問題担当副病院長を医療を受ける者に対する説明に関する責任者として配置済み。</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
<p>・活動の主な内容：</p> <p>診療情報管理委員会を設置し、病院長の指名した委員長を責任者として配置済み。</p> <p>平成 26 年 11 月より診療記録の監査を実施している。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（２）名、専任（２）名、兼任（６）名  うち医師：専従（ ）名、専任（１）名、兼任（５）名  うち薬剤師：専従（ ）名、専任（１）名、兼任（ ）名  うち看護師：専従（２）名、専任（ ）名、兼任（１）名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>（１）医療の質の向上及び安全に関する事項  （２）インシデントレポート等に関する調査・分析  （３）医療事故防止のための改善策の策定・実施及び周知  （４）医療調査委員会開催の要否  （５）院内各部署における医療安全管理状況の点検  （６）医療の安全性に係る教育および研修  （７）医療の安全に関する最新情報及び警鐘事例の職員への周知  （８）医療事故防止対策マニュアルの見直し  （９）医療安全に関する院外への情報提供  （１０）その他医療安全に関する事項</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 <input checked="" type="radio"/> 無 ）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 <input checked="" type="radio"/> 無 ）</p> <p>・規程の主な内容：  審査部門の設置について今後検討する。</p> <p>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有 <input checked="" type="radio"/> 無 ）</p> <p>・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有 <input checked="" type="radio"/> 無 ）</p>	
⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
<p>・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 <input checked="" type="radio"/> 無 ）</p> <p>・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療</p>	

技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有  無）

・規程の主な内容：

監査部門の設置について今後検討する。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有  無）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有  無）

⑨ 監査委員会の設置状況

有  無

・監査委員会の開催状況：年 回

・活動の主な内容：

平成 28 年度内に監査委員会を設置する予定。

・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有  無）

・委員名簿の公表の有無（有  無）

・委員の選定理由の公表の有無（有  無）

・公表の方法：

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他



⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 68 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 件
- ・医療安全管理委員会の活動の主な内容
  - (1) 医療法に基づく医療事故に該当又は非該当に関する事。
  - (2) 異状死に該当又は非該当に関する事。
  - (3) 家族等への対応に関する事。
  - (4) 医療法に基づく医療事故の公的機関への報告に関する事。
  - (5) 医療法に基づく医療事故の公表に関する事。
  - (6) その他医療法に基づく医療事故に関する事。
  - (7) 医療法に基づく医療事故発生の原因調査に関する事。
  - (8) 医療法に基づく医療事故発生の原因究明等に関する事。
  - (9) 医療法に基づく医療事故調査報告書（案）の作成に関する事。
  - (10) 医療法に基づく医療事故の再発防止策の策定に関する事。

⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院への立入り（有（病院名： ）） 無
- ・他の特定機能病院からの立入り受入れ（有（病院名： ）） 無
- ・技術的助言の実施状況  
今後、厚生労働省から示される立入り及び受入れの方法、内容を参考に来年度から行う予定。

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況  
患者・家族等からの相談及び苦情等に適切に応じるため医療相談窓口を設置する。  
相談及び苦情等のうち、医療の安全に係る内容のものは、本院の安全対策等の見直しにも活用している。医療相談窓口の責任者は、医療安全管理部に所属しており、情報共有を図っている。  
また、相談したことにより患者・家族等に不利益が発生しないように配慮している。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）
- ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（有・無）
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

- ・ 研修の実施状況  
現在の研修内容等に関して見直しを実施予定。

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・ 研修の実施状況  
国立大学附属病院長会議が実施する研修（今後検討予定）に来年度から参加させる予定。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構 2015年6月5日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
・ 情報発信の方法、内容等の概要 院内掲示及びホームページ等により、特定機能病院であることの情報を発信している。 また、先進医療を新たに行う等の各種情報を、地域医師会等へ随時提供している。 ○ (発信方法) 大学概要、病院ホームページ、入院のしおり、外来診療のご案内、院内掲示にて発信 ○ (概要) 基本理念、目標、医療体制、評価指標、先進医療	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ○ チーム医療を推進し、複数の診療科や中央診療施設等が連携し、全人的医療の提供を実施 ○ 患者の病状に応じ充実した医療を提供できるよう、複数診療科における症例検討会の実施 (手術、化学療法、放射線治療等) ○ 救急科、総合診療部を受診した複数診療科領域の患者に対し、専門領域の臓器別診療科と連携 ○ 医療安全等に関し、医療の質の向上等のため、組織横断的に担う実働的な組織として医療安全管理部及び各種委員会を設置し、専任リスクマネージャーの配置等、病院全体で連携を図っている。 ○ 院内感染対策に関し、感染制御部及び各種委員会を設置	